

小町塚経塚と出土瓦経に関する年表兼文献目録稿

杉 崎 貴 英

前言

本稿は、小町塚経塚（三重県伊勢市）と出土瓦経に関する文献目録を主体とするものである。まず基礎的理解の提示に代えて、独立行政法人国立文化財機構運営のウェブサイト「e 国宝」における「小町塚経塚出土品」（東京国立博物館蔵、重要文化財）の解説文を引いておこう。

伊勢神宮外宮に近い丘陵上に立地する小町塚経塚は、江戸時代から多数の瓦経を出土する遺跡として有名であったことが災いして、その出土品は早くから散逸した。

各所に分蔵される瓦経には法華経・無量義経・観普賢経・大日経・金剛頂経・蘇悉地経・般若心経・阿弥陀経・理趣経などが確認されており、埋納された瓦経の総数は 420 枚以上に及ぶと推測される。

瓦経は、経典が朽ちることなく 56 億 7 千万年後に弥勒が説法する時まで伝えられるようにという願いから、堅固な材質である瓦を利用したもので、末法の到来が強く意識された 11～12 世紀に西日本を中心として盛んに作られた。

また、陶製光背・蓮華座・台座は経塚に副納されたもので、他に五輪塔の存在が知られる。陶製光背には梵字が刻まれており、大きな方が胎藏界大日如来報身真言、小さな方が法波羅蜜・金剛嬉・金剛鬘・金剛歌・金剛舞・金剛法・金剛利・金剛因・金剛語の各菩薩を表している。

これらの遺物は、承安 4 年（1174）5 月から 7 月にかけて、万覚寺の僧西観・遵西らの発願により、外宮の祠官であった度会常章・春章らが檀越となって作られたものであることが銘文から知られる。瓦経には複数の密教経典が含まれ、陶製光背など密教色の濃い遺物があり、経塚营造の宗教的背景をうかがうことができる。

上記に言及されるごとく、この経塚からは承安 4 年（1174）の陰刻銘を有する陶製光背が出土している。それが丸尾彰三郎ほか編『日本彫刻史基礎資料集成 平安時代 造像銘記篇』第 8 卷（中央公論美術出版、1971 年）に収録されていることも示すように、考古学の研究対象たる同経塚は、在銘作例に関し彫刻史研究の側からも一定の留意が払われてきたと思われる。

筆者は 2022 年 9 月下旬、富山考古学会の西井龍儀氏より、砺波市に在住した個人収集品に由来する一括資料（砺波市埋蔵文化財センター蔵）につき照会を受けた。そこには昭和 6 年（1931）の箱書を伴う一片の小町塚経塚瓦経も含まれる。これに応じて探索を試み、やがて慇懃のもと口頭発表をまとめるに至った。本稿はその過程で作成したファイルに増補を加えたものである。

▼江戸時代▼		
安永5年	1776	▽藤貞幹『仏刹古瓦譜』（『古瓦譜』下）に「菩提山仏経瓦」.[小玉2009]参照。 * [清野1944]の「経瓦研究史」に「貞幹古瓦譜の序文の無い品には瓦経の無いものもあるが、安永五年の序文ある本には普通伊勢国菩提山経瓦の一片が掲げてある。之れで見ると経瓦の図を著書中に掲げた最初の人は藤貞幹であるが（以下略）。
天明4年	1784	▽山中甚作『異事漫録』乾（自筆本、国立国会図書館蔵）に、「天神山古瓦」・「菩提山古瓦」に関する言及あり。
天明年間頃	1781 1789	▽この頃、「度会郡山田二俣」における「塚山」の発掘で瓦経が出現する（安岡親毅『勢陽五鈴遺響』稿、度会郡巻之四「塚山」の項）。
寛政初め	1789	▽木内石亭、菩提山瓦経の大量発掘を伝える。[矢羽2012][小玉2013]参照。
寛政3年	1791	▽朴巖祖淳（瓦礫舎、尾府桜天神社霊岳院住職）、霊岳院で同好者と古物展覧会。
寛政8年	1796	▽瓦礫舎『古瓦譜』（名古屋市博物館蔵）の「下」に「勢州菩提山経瓦」2点。 [参照] 1791年の項、[吉田1962]、[梶山1992]
寛政9年	1797	▽閏7月、部関月『伊勢参宮名所図会』「菩提山」の項に載る。
文化13年	1816	▽名古屋市博物館の瓦経片、この年、伊勢山田で拾得される。 [典拠]『名古屋市博物館館蔵品目録』第1分冊〈総集・考古編〉（1996年）
文政4年	1821	市河寛齋（号・米庵、1749～1820）『金石私志』（国立国会図書館蔵） * 巻之二に「伊勢山田且過瓦経」。なお東京国立博物館蔵品に市河寛齋旧蔵の拓本「伊勢山田群且過経瓦」1幅（作成年不明）あり。[小玉2009]参照。
文政7年	1824	▽この年、耽奇会第五集に谷文晁（1763～1840）が「大日経」瓦経片を出品。「経瓦大日経 伊勢国山上の郷より掘出承安四年の物也」。図あり。 [参照] 山崎美成『耽奇漫録』〈日本随筆大成第1期別巻〉（吉川弘文館、1993年）。
文政11年	1828	▽3月半ば頃、山田上三郷（辻久留・二俣・浦口）にて瓦経が掘り出される。 * [小玉2009]参照。『度会系図余材』肆に「承安四年経瓦」。橋村正克『考訂度会系図考証前編』（安政3年）。 ▽5月28日付で、狩谷椽齋（江戸の考証学者、1775～1835）、足代弘訓（国学者・伊勢外宮神職、1785～1856）宛の書状で「且過古瓦之事」にふれ、完形の瓦経の入手について希望を述べ依頼する。 [典拠]「椽齋書簡集」其11（『集古』5、集古会、1923年11月） [収録]「椽齋華牋」（『日本芸林叢書』8、六合館、大正12、鳳出版、1972年） ▽野里梅園『梅園奇賞』（国立国会図書館蔵） * 「伊勢外宮從天神山掘出古鏡破裂」として陶製円板菩薩坐像の拓影を収録。 * [小玉2006]は、「井上頼文資料拓本集」（井上家旧蔵、[小玉2009]収録）と和田千吉作成「伊勢小町塚瓦経拓本」（東京国立博物館蔵）に拓影があるものと同一個体に属することを指摘する。
天保4年	1833	安岡親毅『勢陽五鈴遺響』稿、度会郡巻之四「塚山」項。[小玉2009]参照。
天保9年	1838	西田直養（浩然）『金石年表』 * 「承安 四 伊勢菩提寺瓦経」として情報を登載。 御巫清直『天保九年 聚古城』稿1冊（神宮文庫蔵） * 「菩提山神宮寺廃瓦 福村土佐」。
天保10年	1839	▽東条義門（小浜妙玄寺7世、1786～1843）から上野丹山（越前浄勝寺13世、1785～1847）へ贈られた経緯が、この年の冬に義門が記した箱蓋裏墨書銘から知られる。その文中に「なかにハ承安の文し見えて月日記せるも侍り」とある。『法華経』分別功德品。[中島2021]参照。 ▽1月25日、名古屋・吉田雀巢庵で博覧会が開催される。会主の雀巢庵、「勢州菩提寺経瓦」を出品。[小玉2012]参照。『尾張名古屋博覧会目録』一（国立国会図書館蔵）によるという。
天保12年	1841	▽5月11日、大坂・円通院での物産会（会主：吉林正見、出品者107名、出品1019件）で、山片平右衛門が「伊勢経瓦古瓦」を出品。 * [小玉2012]。「天保十二年五月十一日浪華天満宮西寺町円通院物産会目録」（『大阪諸家物産会目録』稿 巻8、西尾市岩瀬文庫蔵）によるという。
嘉永元年	1848	▽この年、斎藤拙堂（1797～1865）の著『古今雑考』稿本、巻之一・巻之二書写（原本作成年未詳、鈴鹿市立図書館松野家文庫）。巻之一で小町塚経塚瓦経に関する言及あり。「当国山田の且過村といふ処にて土中より経文鑄りたる瓦をおり掘出す（中略）黒部邦祐といふ人所蔵の経瓦には承安四年の文見へたり（以下略）此経瓦は本地の書家田器 蒔田亀太 始て掘出し藤叔蔵 貞幹 へも送りたる由なれと年号なき方のことにや好古日録好古小録にも出さゝればいさゝかこゝに驚かしおくのミ」。[小玉2009]参照。 * 黒部邦祐（俳人、号・李青、1756～1811）所蔵の瓦経を見て、奥書を書写。

小町塚経塚と出土瓦経に関する年表兼文献目録稿

嘉永4年	1851	▽5月23日、京都の山本読書室で物産会。出品者51名・出品458点のうちに、「経文古瓦 勢州山田天神山所出 大和宇陀 森野藤助」あり〔小玉2012〕。 *『読書室物産会目録』稿7巻38（西尾市岩瀬文庫所蔵）等によるという。
嘉永5年	1852	▽黒川春村（号・墨水、1799～1866）、この年10月22日、瓦経についての論及を含む『墨水鈔』巻5をまとめるという。文中で承安4年の「伊勢国且過某寺の瓦経文の跋記」にふれる。〔小玉2006〕参照。
嘉永7年	1854	▽5月10日、京都の山本読書室で物産会。出品者39名・出品223点のうちに、「伊勢神宮寺経文古瓦 杉本越前守」あり〔小玉2012〕。 *『読書室物産会目録』稿8巻41（西尾市岩瀬文庫所蔵）によるという。
安政3年	1856	橋村正克『考訂度会系図考證前編』参、肆の「頭注」。〔小玉2009〕参照。
安政5年	1858	▽5月10日、京都の山本読書室で物産会。出品者49名・出品386点のうちに、「和州宇陀 伊藤俊輔」の「経文 勢州山田天神山」あり〔小玉2012〕。 *『読書室物産会目録』稿8巻45（西尾市岩瀬文庫所蔵）によるという。
安政6年	1959	黒川春村「経瓦の説」（『碩鼠漫筆』〈墨水遺稿〉巻之十五） *「経瓦と称するものまゝあり」「猶委曲には墨水鈔に明せり」。 〔復刻〕黒川真道校訂『墨水遺稿 碩鼠漫筆』（吉川弘文館、1905年）。
文久3年	1863	鶴飼徹定『古経題跋』 *巻上「伊勢神宮寺蔵」に「瓦経 在伊勢度会郡山田外宮旧跡（以下略）」
慶應2年	1866	竹川政悌『射和文庫射陽書院略目録』1冊（射和文庫蔵） *〔小玉2012〕による。 *「伊勢国度会郡中村出菩提山経瓦 般若心経ヲ刻ス僧聖賢刻ストアリ」
▼明治期▼		
明治5年	1873	【展示】「山田博覧会」（於：元御師龍太夫邸） *3月15日～5月15日。三重県下における最初の博覧会。 *江川成之（伊勢外宮門前中島在住の書家、号・近情、1852～1921）所蔵の「伊勢国度会郡山田常磐町向山経瓦」と「同中村菩提山経瓦」が出品。 〔小玉2015②〕は「小町塚経塚と菩提山を明確に区別する」点に留意する。 *度会郡「博覧会品目」（東京文化財研究所編『明治期府県博覧会出品目録』中央公論美術出版、2004年）。
明治9年	1876	▽市河寛斎（号・米庵、1749～1820）が蔵した拓本「伊勢山田且過瓦経」1幅、遺族により明治政府に寄贈される（現・東京国立博物館蔵品）。 https://webarchives.tnm.jp/imgsearch/show/E0073848
明治11年	1878	【展示】三重県物産博覧会（於：安濃郡津公園） *9月1日～10月15日。県内出土品の展覧として、これに次ぐ企画は「三重考古展」（1954年）という〔小玉2012〕。 *「菩提山古瓦」として県下の個人3名の所蔵品を展示。 〔参照〕『三重県物産博覧会出品目録』（尾鷲市立中央公民館郷土室蔵）、『明治11年明治12年 埋蔵物録』
明治12年	1879	▽5月27日、得能良介とエドワードキヨソネ、松阪樹教寺で蒐集品陳列を縦覧。 〔度会郡中村菩提山ニ出ル経瓦〕7点があった〔小玉2012〕。 〔参照〕『伊勢新聞』6月6日記事、「松阪樹教寺江蒐集之分 古器古文書古書画類目録」『明治十二年五月得能印刷局長展覧 古器古書画目録』〔小玉2012〕。 ▽この年、柏原学而（1835～1910）、小野杜堂（1840～1915）が蔵していた伊勢出土の瓦経片を入手。〔川見2023〕参照。
明治13年	1880	▽5月、静嘉堂文庫蔵の瓦経（松浦武四郎〔1818～1888〕旧蔵）の箱の墨書。 〔箱蓋表〕「瓦経」〔箱蓋裏〕「勢州度会郡菩提山／神宮寺境内掘出／庚辰五月中西弘綱所恵／万庵兼書〔印〕」 *中西弘綱（神職・書家。号・弘繩。1842～1915） *市河万庵（書家。米庵の子。1838～1907） *〔内川2013・2014〕〔小玉2015②〕参照。 *参考：福永昭「松浦武四郎と古物蒐集」（『三重の古文化』99、2014年）
明治26年	1893	『史料通信叢誌』第1編前（史料通信協会） *「東海道」のうち「伊勢」に「○山上の郷より掘出せる経瓦」。図あり。瓦の表裏に誌せしハ大日経の経文にして承安四年のものなりと伝う。 *〔小玉2006〕は『大日経』巻第7持誦法則品第4・真言事業品第5の一部に比定。
明治27年	1894	伊藤圭介「錦窠古瓦譜」（『東京学士会院雑誌』16-3） *「古瓦摺本之品種」のうちに「勢州内宮菩提山経瓦」（大日経）。
明治28年	1895	『神都名勝誌』（神宮司庁）10月30日刊 *巻2に、古森梅太郎蔵の「天神山所獲古瓦法華経卷之三譬喩品偈」の拓影、

小町塚経塚と出土瓦経に関する年表兼文献目録稿

		<p>巻4に「御巫清白蔵」の「菩提山経瓦摺本」を掲載。後者は実際は小町塚経塚瓦経に属することが後に指摘された。[小玉2007] 参照。 [影印1992]『神都名勝誌』全6巻7冊(吉川弘文館)</p>
明治31年	1898	<p>黒川真道「銅製経筒の説」(『考古学会雑誌』2-5) *瓦経の著名なものとして「伊勢国神宮寺」を挙げる。</p>
明治32年	1899	<p>和田千吉「伊勢国の瓦経」(『考古学会雑誌』3-2) *『古経題跋』を引用。</p>
明治34年	1901	<p>和田千吉「播磨発見の瓦経及願文考(承前完)」(『考古界』1-2) *「伊藤(マ) 富太郎氏所蔵の瓦の伝には山田天神宮小町塚とあり」 ▽3月9日、第31回集古会(課題「有職物 楽器 女装 古瓦」)開催。 *若林勝邦(東京)の出品に「伊勢国山田経瓦」1枚、伊藤富三郎(東京)出品の古瓦40枚中に「伊勢国山田経瓦」1枚。 [参照]『明治三十四年 集古会記事』(集古会誌、1901年12月)。 ▽10月22日、和田千吉、黒川真道郎で黒川春村『墨水鈔』を書写。 [参照]昭和9年(1934)の項。この写本は関東大震災で焼失した[小玉2012]。</p>
明治35年	1902	<p>八木契三郎『考古便覧』(嵩山房) *「◎古瓦の研究」の「○経瓦出所一覧表」に「伊勢国度会郡山田 般若心経 承安四年甲午五月二十七日 古瓦譜」。 ▽11月18日、三重県嘗百交友社第31回博物館(最終回、於：正泉寺〔三重郡富田村〕)に「錦窠古瓦譜 一帖 東京 錦窠文庫」出展。「勢州内宮菩提山経瓦」をふくむ。[小玉2012]による。</p>
明治36年	1903	<p>和田千吉「伊勢発見の瓦経」(『考古界』2-12) *「伊藤富三郎(マ)氏所蔵のもの伝来なる、山田天神宮小町塚はれなり」 *桑名の伊東富太郎(1876～1958)のことか? ▽3月14日、第42回集古会、開催。 *森安次郎(川崎)が所蔵の瓦経1点を出品。[和田1903][小玉2006]参照。 *「課題外の出品にして森氏蔵の瓦経は殆ど完全のものにして刻文鮮明実逸品たるを失はず」(『集古会誌』巻之二、同上)。表裏の翻刻あり。 *当該の瓦経は、いま早稲田大学会津八一記念博物館蔵[奥村1967]。 『法華経』巻第6法師功德品第19。 [参照]「第四十二回出品目録」(『集古会誌』巻之二)。 ▽11月21日、第40回好古会、開催(於神宮奉齋会本部〔東京・有楽町〕)。 *神田息胤(同会評議員、伊勢神宮禰宜)、「瓦経(梵字漢字)伊勢国山田町字天神山より発掘 二個」を出品。 [参照]「第四十回好古会記事」(『好古類纂』2編第5集付録、1904年10月)。 ▽この年の現地の状況…「伊勢の瓦経之知られしハ菩提山也(中略)明治三十六年ニ尋ねたるにもとは鹿取ニ一杯位拾ひ置きしか人ニよろこひて持ちゆきて今ハなしといへり」(三村清三郎の『瓦経考』への頭注、[小玉2006]による。昭和9年〔1934〕の項も参照)。</p>
明治37年	1904	<p>山中笑「伊勢国瓦経の出所に就て」(『考古界』4-5) [再録1987]『山中共古全集』3〈日本書誌学大系46-3〉(青雲堂書店) ▽10月22日、考古学会の常集会、開催。山中笑、「伊勢瓦経の拓本」を出品。 [参照]「考古学会記事」(『考古界』4-6)。</p>
明治39年	1906	<p>▽6月16日、考古学会の総会、開催。小町塚経塚瓦経やその拓本が多く出品。 [参照]「考古学会記事」(『考古界』6-1)。</p>
明治40年	1907	<p>幸田成友「瓦経」(『集古会誌』丁未 巻之三) *浜和助所蔵『集古帖』3冊の経瓦4枚を書写。 ▽1月26日、考古学会の例会、開催。 *和田千吉、「伊勢天神山」の瓦経やその拓本、「瓦懸仏残片」を出品。 [参照]「考古学会記事」(『考古界』6-6)。 ▽3月30日、考古学会の常集会、開催。 *和田千吉、「伊勢国発掘」の「梵文瓦経」1点、「瓦経」4点を出品。 [参照]「考古学会記事」(『考古界』6-9)。</p>
明治41年	1908	<p>取古生(林若樹)「補遺一束」(『集古会誌』)。[小玉2009]参照。</p>
明治42年	1909	<p>亀田一恕編『皇朝金石年表』(亀田考古堂) *木版で70部を発行。「伊勢菩提寺瓦経」を記載。 *なお、『集古』辛酉二(通巻131号)巻末の会員消息欄に亀田一恕→亀田仁海の改名の告知あり。 黒川真道「日本金石銘年表」〈考古学叢書〉(『考古界』8-5付録) *同誌6-7より連載。承安4年のものとして「伊勢菩提寺瓦経」を載せる。</p>

小町塚経塚と出土瓦経に関する年表兼文献目録稿

		奥田一夫『日本金石年表』(名古屋・奥田兼三郎) * 承安4年のものとして「伊勢二俣天神山瓦経」。
明治43年	1910	石谷齋藏「伊勢山田に於ける埋経事蹟」(『考古学雑誌』1-4) * 「天神山(小町塚はその部分とす)」 大西源一「山田経ヶ峰曼荼羅石の運命」(『三重県史談会々志』1-4) 高橋健自「伊勢国朝熊山発掘の経筒」(『考古学雑誌』1-2) * 「有名な瓦経の発掘地にして(中略)経ヶ峯(中略)天神峯、菩提山、及び小町塚の四箇所ありて」と列記。 八木契三郎『考古精説』(嵩山房) * 「経瓦」の項目あり。
明治44年	1911	大阪府立図書館編『本朝金石文展覽目録』 * 「伊勢 大久保堅磐氏」が「伊勢山田天神山経瓦(現品)承安四年」出品。 [複製2014] 宮里立士編・解説『大阪府立図書館稀覯書展覽目録』1 〈書誌書目シリーズ105〉(ゆまに書房) 荻野仲三郎「朝熊山の古鏡并に経筒」(『禅宗』18-12 [通巻201]) 西村無葉「射和文庫に収めたる古瓦」(『三重県史談会々志』2-3) * 菩提山経瓦「勢州度会郡中村菩提山の古瓦にして般若心経を刻し、僧聖賢刻とあり」。 ▽3月19日、三重県史談会(松阪で発足)の第2回例会が開催される。 * 幹事の一人である三村竹清(清三郎、1875~1953)が和田千吉藏「天神山出土製仏光背」の拓影を出品。これを初回に、「毎月のように開かれていた例会には、その原品とか、拓本が出品された」という[小玉2009]。 [参照]「第二回三重県史談会例会」(『三重県史談会々志』2-3)。 ▽6月18日、三重県史談会の第5回例会が開催される。 * 松本秀業出品の「宇治天照山大神宮寺経瓦破片」1点あり。 [参照]「第二回三重県史談会例会」(『三重県史談会々志』2-6)。
▼大正期▼		
大正元年	1912	▽3月11日、第82回集古会(課題「年号あるもの」)開催。 * 和田千吉、「瓦製仏光背」1片を出品。「伊勢天神山出土経瓦と共に出たり」。 [参照]「第82回出品目録」(『集古会志』辛亥三、1912年9月)。 ▽「大正元年 宇治山田市天神山」の注記をともなう瓦経1点あり(小山正文氏(本證寺)所蔵品)。 [網干1979『鷹陵史学』] 参照。
大正2年	1913	▽1月、亀田考古堂(東京本郷。一恕・仁海とも)、現地で数百片の瓦経を発掘。林若樹、その半分を購入(その残りは散逸)、翌年に拓本集『伊勢山田小町塚瓦経』2冊(石水博物館)の後記に記す。[小玉2009][津田2020] 参照。 ▽2月16日 三重県史談会第4年第1回例会(於:法久寺(松阪市中町)本堂)。 * 桜井祐吉藏の「山田天神山瓦経」など出品。 [参照]「三重県史談会第4年第1回例会」(『三重県史談会々志』4-2) ▽3月 小町塚経塚で瓦経片出土(国学院大学蔵品の注記、[小玉2012])。 ▽3月23日 大西源一・桜井祐吉・三浦香浦、三村清三郎の送別旅行で山田の墓巡り。小町塚瓦経3点。 [参照]大西源一「神都掃苔記」(『三重県史談会々志』4-3)・「神都掃苔記下(三村竹清君送別旅行)」(『三重県史談会々志』4-4)。 ▽三村竹清、この年3月までに拓本帖を作成(10部)。 [小玉2009] 参照。 ①三重大学附属図書館蔵本(小山某旧蔵) ②石水博物館蔵本(川喜田久太夫本)『梅巖蔵瓦』拓本帖1冊石錐1 ③神宮文庫蔵本(大西源一旧蔵) ④津市・喜田川忠之家蔵本(同要三郎遺品) ▽4月20日 三重県史談会大正2年度第2回例会、開催される。 * 大西源一出品の「宇治山田小町塚発掘瓦経破片」3個あり。 [参照]『三重県史談会々志』4-3。 ▽6月15日 三重県史談会第4年度第3回例会(於:継松寺〔松阪市〕書院)。 * 大西源一出品の「山田小町塚瓦経」15片と「山田小町塚瓦経拓本(原品喜田川要三郎蔵)」(表裏42種)あり。 [参照]『三重県史談会々志』4-4。 大西源一「三重県下に於ける金石文並類似遺物一覧」(『三重県史談会々志』4-7) ▽11月16日 三重県史談会11月例会、開催(於:岡崎山書院〔松阪中町])。 * 久留品山、大西源一の蔵品、古森梅太郎蔵品の拓本など、最多の出品数。 [参照]「大正二年十一月例会出品記録」(『三重県史談会々志』4-8)
大正3年	1914	三村竹清「大西君の県下金石文一覧を見て」(『三重県史談会々志』4-9) * 小町塚の瓦経は「市川寛斎の金石私志に著録されて居る方が古い」。

		大西源一「年号及人名の奥書ある瓦経の一標本」(『三重県史談会々志』4-12) * [小玉2009] [津田2020] 参照。
		▽1月、林若樹、拓本集「伊勢山田小町塚瓦経」初集・二集(石水博物館・国立歴史民俗博物館蔵)を作成。 * 初集43片、二集30片。題字と奥書は三村竹清。 * 「大正二年癸丑一月亀田考古堂発掘伊勢山田小町塚々畔得経瓦数百片帰予即購得其半同時拓其残部作初二集所拓物今既散逸」 [参照] 牧野和夫「林若樹日記・大正三年(上)」 (『実践女子大学文学部紀要』55)
		▽12月、亀田考古堂、『中等学校地理歴史教員協議会議事及講演速記録』第1回(中等教育研究会)の巻頭に「亀田考古堂販売品」の広告を寄せる。 文中に「○出土古物(古墳時代遺物、石器時代遺物、布目瓦、瓦経、陶磁器、銅鉄器)」「右販売品は実物を主とし真正なるを保証仕候」とある。
大正7年	1918	住田正一「古瓦発見地名表」〈雑録〉(『考古学雑誌』9-1) * 「天神山 度会郡山田 経瓦 鎌倉 古瓦譜 丸山」 【展示】神宮徴古館「神郡沿革史料展覧会」 * 11月1日～12月10日。「瓦経残片 経ヶ峯発掘 1 本館」 「旦過山瓦経拓本」として①承安4年在銘のもの2枚(大西源一蔵)、 「旦過山瓦経拓本」原品二十片、内一編承安4年の銘あり1枚 喜田川要三郎 「旦過山瓦経拓本」原品東京市三村清三郎氏蔵 1冊 喜田川要三郎
大正8年	1919	東京帝室博物館編・刊『東京帝室博物館歴史部第四区列品目録』 * 「宇治山田市浦口町俗称小町塚発掘」
大正9年	1920	大脇正一「伊勢出土金剛頂経瓦経に就て」(『考古学雑誌』11-3 [通巻254]) * [大脇1934] 参照。 考古学会編『考古図集』第7集(工芸美術研究会) * 「伊勢宇治山田市小町塚発掘瓦光背(和田千吉氏蔵)小町塚については」 * 「その一名たる山田天神山として之を述べたるも詳細を知るべからず。光背は瓦製にして柄を合」
大正10年	1921	木崎愛古編『大日本金石史』第1巻(好尚会出版部) 中村直勝「今熊野亀塚発見瓦経」(『京都府史蹟勝地調査会報告』7、京都府) * 「猪熊信男蔵拓本96個のうち」として2片の文字。[小玉2012] 参照。
大正11年	1922	喜田川要三郎「家蔵瓦経」(『考古学雑誌』272) * 「伊勢山田小町塚発掘にかゝる」 ▽8月1日、井上頼文(1861～1914)の子息頼寿・頼数、亡父の拓本を綴じる。 * 「井上頼文資料拓本綴」。[小玉2009] に公刊。
大正12年	1923	津田「瓦経」項「考古学辞彙」(『考古学雑誌』14-1) * 「瓦経の発見地として著名なるは伊勢の国であるが」「浦口町小町塚」 『増補尚古年表』3。 * 「伊勢宇治山田市小町塚発見」。 『渥美郡史』(渥美郡役所) * 「第61図 伊勢天神山発掘経瓦拓本」。[小玉2009] 参照。
大正13年	1924	後藤守一「三河に於ける見聞(二)」 * 「保美の瓦経」の項で、宝海天神社(田原市)所蔵品を拓本を掲げて紹介。 * 『平安遺文 金石文篇』No.442「愛知県保美出土瓦経銘」の典拠文献。
大正14年	1925	高瀬承厳「法宝護持の史料として見たる日本金石文」(『仏教学』2-8/9) * 「通称小町塚と呼ぼるところから」 ▽6月、井上昇三氏、奈良市で「伊勢の方から」の「経瓦」断片2点を購入する。 [井上1978] 参照。 ▽この年、川喜田久太夫(号・半泥子、1878～1963)、瓦経拓本集10部を作成。 * 大和文華館所蔵の拓本集「伊勢小町塚経瓦」の奥書に「大正十四乙丑秋」。「於千歳山荘」(川喜田の邸宅)。 * 石水博物館蔵「伊勢小町塚古瓦」拓本類1冊、鈴木敏雄旧蔵・皇學館大学史料編纂所、「伊勢小町塚古瓦」(昭和2年製本)、他に龍谷大学図書館蔵本「いせ小町塚之古瓦」(林若樹旧蔵)、三重大学図書館蔵本「伊勢小町塚経瓦」。
大正15年	1926	帝室博物館編『帝室博物館年報 大正14年自1月至12月』(帝室博物館) * 「新収品」に「伊勢小町塚瓦経拓本」1帖が載る。 中村直勝「今熊野亀塚発見瓦経」(『京都府史蹟勝地調査会報告』7) * 第11図「猪熊信男氏珍蔵ノ拓本九十六個」中にあり。[小玉2009] 参照。 「伊勢国小町塚発見瓦経拓影」。 三村清三郎「いつものほんのおはなし」(『日本及日本人』107) * 「其の瓦経は菩提山と小町塚より出でて名高し三部の秘経、心経、法華経、

小町塚経塚と出土瓦経に関する年表兼文献目録稿

		曼陀羅の類なり」
▼昭和戦前期▼		
昭和2年	1927	石田茂作「経塚」(『考古学講座』20、国史講習会) [再録] 同『仏教考古学論攷』4〈経典編〉(思文閣出版) 石田茂作「土塔に就いて」(『考古学雑誌』17-6) [再録1977] 同『仏教考古学論攷』4〈仏塔編〉(思文閣出版) ▽皇學館大学史料編纂所蔵本『伊勢小町塚経瓦』拓本帖(鈴木敏雄旧蔵)、 この年にあらためて製本〔小玉2009〕。
昭和3年	1928	▽9月23日、集古会第167回例会(課題「瓦」)。 *「▲林若樹出品▲」のなかに「伊勢山田小町塚瓦経初二集大 二冊」と 「同(三村)竹清蔵拓本 一冊」。 *「▲大坂 三浦おいろ出品▲」の「瓦拓本 一綴」の内訳に「伊勢天神山瓦経」。 [参照]「集古会記事」(『集古』戊辰五〔通巻167〕、1928年10月)。 石田茂作「経塚統編」(『考古学講座』27、国史講習会、雄山閣)
昭和4年	1929	三村清三郎「伊勢比事記余録」 (山中塩編『趣味と嗜好 共古翁記念文集』岡書院) *「十三 伊勢の経瓦」の項を参照。 *名古屋市立博物館蔵(細見亮市旧蔵)の陶製光背の銘、「右神田淡崖旧蔵東 堂雑集といへる帖にある拓本、伊勢の経瓦なるべしと云」
昭和5年	1930	後藤守一編『考古図彙 高橋健自博士蒐蔵』(万葉閣) 三村清三郎「瓦経」(同『本の話』岡書院) * [小玉2009] 参照。 *「菩提山」「小町塚」。図版あり。 [再録1985] 同『三村竹清集』7(青裳堂書店) *同5巻も参照。「亀田一恕君を御徒町に訪ふ(中略)此夜同君方にて、山田 天神山発掘の瓦経を見る。総数一百余片(以下略)」
昭和6年	1931	▽岩川コレクション(砺波市埋蔵文化財センター蔵)の小町塚経塚瓦経片一点の 箱蓋裏墨書銘に「昭和六年」とある。[杉崎2023] 参照。
昭和7年	1932	▽井上頼文(1861～)、没。「井上頼文資料拓本集」はこれ以前の作成。
昭和8年	1933	鈴木敏雄『三重県古瓦図録』鈴木・栗山文庫刊 [参考2006]『瓦コレクション』〈国立歴史民俗博物館資料図録4〉 ▽10月31日付で、河瀬虎三郎(兵庫県)所蔵(和田千吉旧蔵)の、伊勢国小町 塚出土瓦製光背二箇・台座一箇、重要美術品に認定。 ▽11月11日付で、和田千吉所蔵の伊勢国小町塚経ヶ峯等出土瓦経残片百四箇、 重要美術品に認定。名称「伊勢国小町塚経ヶ峰等出土瓦経残片 百四箇 内永 承(マ)ノ年記アルモノ五箇」。 ▽このころ、鈴木敏雄、津市の川喜田四郎兵衛宅で古瓦・瓦経片を手拓する。 *鈴木敏雄「津市川喜田四郎兵衛氏蔵古瓦目録」(稿本)あり。[小玉2012]。 ▽この頃、和田千吉、小町塚出土瓦経コレクションを手放したか [津田2017]。
昭和9年	1934	大脇正一「伊勢出土金剛頂経々瓦について」(『史蹟名勝天然記念物』9-3) * [大脇1920] を補足し再掲する内容。 ▽三村清三郎(号・竹清、1876～1953)、和田千吉が明治34年に黒川真道郎で 書写した黒川春村『墨水鈔』(1852年の項参照)を『瓦経考』(1冊、個人蔵) として編集する [小玉2012]。
昭和10年	1935	佐藤虎雄「伊勢国の経塚」(『史林』20-1〔通巻77〕) ▽8月3日付で、原邦造(品川区)所蔵の「旧三重県宇治山田市小町塚所在」の「曼 茶羅石」10箇(建武2年〔1335〕在銘のものあり)、重要美術品に認定。
昭和11年	1936	蔵田蔵「埋経」(『仏教考古学講座』6経典篇、雄山閣) [復刻再録1971]『仏教考古学講座』1墳墓・経塚編(雄山閣出版)
昭和12年	1937	矢島恭介「経塚」(『仏教考古学講座』10経典篇、雄山閣) [復刻再録1971]『仏教考古学講座』1墳墓・経塚編(雄山閣出版) 柴田常恵「伊勢天神山の経瓦」〈中部日本昭和名跡行脚58〉 (『名古屋新聞』5月17日)
昭和13年	1938	▽この年、「松阪市魚町・鈴木勘一郎が、津高等女学校鈴木敏雄に宇治山田古森 家蔵の経瓦4点などの売却斡旋、結末不明」[小玉2012]。
昭和14年	1939	『有不為斎文庫善本入札目録』(鹿田松雲堂書店) *黒川春村、三村清三郎の文を引用掲出。 [復刻2000] 柴田光彦編『反町茂雄収集古書販売目録精選集』9 〈書誌書目シリーズ53〉(ゆまに書房) ▽2月25日、大場磐雄、伊勢滞在中に「経瓦の偽物」を見る。 「徒歩山田へ来り中田屋にて伊勢参宮名所図会(図会全集)を求め、帰宿、雨

小町塚経塚と出土瓦経に関する年表兼文献目録稿

		やまず、夕食後湯に入る。／なお中田にて見たる中に、経瓦の偽物あり、菩提山出土のものとなし、表に承安四年の号を入れ、裏に拙劣なる仏像を窺書せり。」 〔『大場磐雄著作集 第8巻 記録——考古学史 築石雑筆（下）』雄山閣出版、1977年）
昭和15年	1940	石田茂作「我国に於ける法華経書写の技巧に就て」 〔『清水竜山先生古稀記念論文集』清水竜山先生教育五十年古稀記念会〕 〔再録1977〕同『仏教考古学論攷』3〈経典編〉（思文閣出版） ▽1月6日、集古会第224回例会（課題「三重県に関するもの」）開催。 *「▲和田千吉氏〔出〕品▲」に、「伊勢古市経ヶ峯、同菩提山、同天神山／（又は小町塚瓦経残欠）」。 〔参照〕「集古会記事」〔『集古』庚辰二〔通巻172〕、1940年3月〕。
昭和19年	1944	清野謙次「藤貞幹「古瓦譜」附、経瓦発見史」（『日本人種論変遷史』小山書店） *「貞幹古瓦譜」に採録されてから伊勢国の瓦経は有名となった。 辻善之助『日本仏教史 上世編』（岩波書店） *「浦口町且過山小町塚出土」の瓦経に言及。
昭和20年	1945	▽5月21日、和田千吉（1871～）没。 *「伊勢小町塚瓦経拓本」（東京国立博物館蔵）はこれ以前。 ▽7月29日、故・古森梅太郎（号・虞山、伊勢山田浦口町、1861～1916）の家、空襲で焼失。梅太郎収集の瓦経は掘り出され保存される〔小玉2006〕。
▼昭和戦後期▼		
昭和23年	1948	景山耕四郎（春樹）「渥美郡出土の瓦製光背残欠」（『郷土文化』3-1〔通巻12〕） ▽10月23日、宇治山田市常盤町の「天神山経塚」（小町塚経塚）で、陶製宝塔の蓮弁片1点が採集されるか。 *〔小玉2012〕。破片裏の注記、三重県立博物館調査資料によるという。
昭和25年	1950	『考古学雑誌』36-3「昭和25年度国立博物館新収品（四月—九月）」 *「三重県宇治山田市浦口町小町塚（中略）出土瓦経」 【展示】国立博物館奈良分館編『三重考古展目録』 *3月15日～4月15日。
昭和28年	1953	田中塊堂『日本写経綜鑑』（三明社） *「瓦経」の一つに「伊勢外宮瓦経」を扱う。図版なし。 *掲出の銘文は黒川春村『墨水鈔』、『古経題跋』上に拠ったか。
昭和29年	1954	三重県教育委員会編『三重考古図録』（三重県教科書供給所） *解説＝榎本亀次郎（東京国立博物館） 【展示】神宮徴古館編『お伊勢博覧会協賛 特別展覧会目録』 *3月31日～5月31日。 【展示】三重県立博物館「三重考古展」 *8月1日～31日。
昭和30年	1955	東京国立博物館編『東京国立博物館年報 新収品目録 昭和29年度』 *No.36772～36775（重要美術品の瓦製光背2面〔図版あり〕・台座、蓮台）。
昭和31年	1956	井上光貞『日本浄土教成立史の研究』（山川出版社） *「三重県小町塚出土瓦経」が挙げられている。
昭和32年	1957	築島裕「中古語表現類型の一としての漢文訓読語」（『国語と国文学』34-10） 〔再録1963〕同『平安時代の漢文訓読語につきての研究』（東京大学出版会）
昭和33年	1958	石田茂作「瓦経の研究」（『瀬戸内考古』2-1） 〔再録1974〕改題「瓦経概説」（高野孤鹿『筑前愛宕山瓦経の研究』雄山閣出版） 〔再録1977〕石田茂作『仏教考古学論攷』3〈経典篇〉（思文閣出版）
昭和34年	1959	▽6月27日付で、東京国立博物館所蔵の土製光背2枚・土製台座残欠2箇・瓦経（大日経巻第四）1枚・瓦経残欠30箇、国の重要文化財に指定。指定名称「伊勢国小町塚出土品」。
昭和35年	1960	竹内理三編『平安遺文 金石文編』（東京堂出版）
昭和37年	1962	井上郷太郎編『考古学資料図録』（多摩考古学研究会） *瓦経8片の図版を掲載。いずれも「伝伊勢国」「大日経七巻六」とも記載。 *掲載品は編者の収集にかかり、八王子市に寄贈され現・同市郷土資料館蔵。 〔一部再録1982〕『井上コレクションの古瓦』特別展図録（八王子市郷土資料館） 荻原龍夫「中世祭祀組織の研究」（吉川弘文館） *「第五章 村人・氏人・氏子の意味の変遷」で論及。 鈴木敏雄「楽山文庫考古学遺物展示会目録」（『郷土志摩』30） 保坂三郎・神尾明正・西村強三「伊勢の考古学的遺跡」（文化財保護委員会編・刊『神宮を中心とする文化財』〈文化財集中地区特別総合調査報告1〉）

小町塚経塚と出土瓦経に関する年表兼文献目録稿

		三宅敏之「小町塚瓦経塚」（日本考古学協会編『日本考古学辞典』東京堂）
		吉田富夫「瓦礫舎所蔵古瓦譜について」（『郷土文化』17-3）
		▽この年、文化財保護委員会による伊勢神宮を中心とする文化財調査の一環として、保坂三郎、大西源一（明治・大正年間に小町塚経塚を発掘）らとともに小町塚経塚の調査をおこなう。〔保坂1971〕〔難波田1982〕参照。
昭和38年	1963	奥村秀雄「経塚研究の一視点—藤井姓に関して—」（『大和文化研究』8-8）
昭和39年	1964	五島美術館編『源氏物語 その文学と美術』（五島美術館） *「白瓷光背」として東京国立博物館蔵品の図版と解説を掲載。
		満岡忠成「伊勢市出土の渥美窯製品」（『陶説』141）
		【展示】三重県立博物館「三重県文化財展」 *10月4日～18日。
昭和40年	1965	沢田由治「渥美半島古窯址概説」
		奥村秀雄「伊勢地方出土の瓦経—渥美半島での焼成地を求めて—」
		奥村秀雄「伊勢地方における埋経—渥美半島との関係において—」（『MUSEUM』167）
		奥村秀雄「伊勢地方出土の瓦経—渥美半島での焼成地を求めて—」（『陶説』143）
		蔵田蔵「経塚論 七、東京国立博物館保管、近畿地方出土の経塚遺物（上）」（『MUSEUM』174）
		*「一 三重県伊勢市浦口町旦過山 小町塚経塚（平安時代後期）」
		小玉道明「ふるさとの遺跡」①～⑥（『毎日新聞』三重版 日曜文化欄） *「古窯跡」「経塚」の回あり。 〔再録1996〕小玉道明『伊勢湾西岸考古資料』（伊勢湾西岸考古資料編集委員会）
		中村五郎「岩代承安経筒銘に見える藤井氏について」（『大和文化研究』10-5）
		▽この年1月、「伊勢市浦口町の小町塚経塚で墓地造成により、陶製宝塔の屋蓋・軸部連弁台部破片の発見、浦口町連合会保管」〔小玉2006〕。 〔参照1991〕伊勢市郷土資料館編『伊勢の経塚—埋経信仰—』
		▽この頃、神宮司庁古河真澄・釜谷久孝氏、小町塚経塚で瓦経片を採集。
昭和41年	1966	池辺弥『和名類聚抄郷名考証』（吉川弘文館）
昭和42年	1967	萩原龍夫「鎌倉時代の神宮参詣記」（『仏教文学研究会編『仏教文学研究』5、法蔵館）
		奥村秀雄「伊勢小町塚出土の瓦経—早稲田大学 会津記念室蔵—」（『考古学雑誌』53-2）
		東京国立博物館編『東京国立博物館図版目録 経塚遺物篇』。〔小玉2009〕参照。
		▽7月付で、伊勢市教育委員会、「小町経塚跡」の石標を建立。 〔参照1979〕中川浄梵『伊勢の文学と歴史の散歩』（古川浩）。
昭和43年	1968	伊勢市編『伊勢市史』（伊勢市） 〔複製1982〕『伊勢市史』（大和学芸図書）
		萩原龍夫「伊勢神宮と仏教」（『明治大学人文科学研究紀要』7） 〔再録1978〕同『神々と村落—歴史学と民俗学との接点—』（弘文堂）
		京都大学文学部編『京都大学文学部博物館考古学資料目録 第2部 日本歴史時代』 *瓦経として、内藤虎次郎（号・湖南）の1918年寄贈品、鹿島門次郎の収集品（鹿島吉夫が1928年に寄贈）、杉浦三郎兵衛（号・丘園）の1958年寄贈品、梅原末治の1967年寄贈品がみられる。
昭和44年	1969	駒井鋼之助「伊良湖岬の東大寺瓦」（『歴史考古』17） *「3.瓦経と瓦との関係」の章で論及。
		【展示】三重県立博物館「日本古美術巡回展」 *10月10日～10月26日。東京国立博物館と三重県教育委員会との共催。 *『文化庁月報』9（1969年9月）に関係記事あり。 *小町塚経塚出土瓦経の1枚を出陳。
昭和45年	1970	【展示】東京国立博物館編『東洋陶磁展—中国・朝鮮・日本—』 *10月9日～11月29日。
昭和46年	1971	保坂三郎「伊勢国小町経塚出土品」（同『経塚論考』中央公論美術出版） 丸尾彰三郎・水野敬三郎「一一五 光背（小町経塚出土）／光背（小町経塚出土）／台座（小町経塚出土）」（丸尾彰三郎ほか編『日本彫刻史基礎資料集成 平安時

小町塚経塚と出土瓦経に関する年表兼文献目録稿

		代 造像銘記篇』8、中央公論美術出版) * 承安4年(1174)の在銘資料として東京国立博物館藏品(光背・台座)と細見亮市藏品(光背、現・名古屋市博物館蔵)の基礎的データを公開。 * 参考文献として[和田1899・1903][佐藤1930][竹内1960][奥村1967]を掲出。
昭和47年	1972	【展示】神奈川県立博物館編『中世の陶器』 * 11月1日～11月30日。 [参照] 沢田由治「中世の陶器展」(『陶説』239、1973年2月)。
昭和48年	1973	亀井明德「平安朝期輸入陶磁器の名称と実体」(『考古学雑誌』61-1) 沢田由治『常滑 越前』(陶磁大系7)(平凡社) 柄崎彰一責任編集『日本の陶磁』古代中世篇2瀬戸・常滑・渥美(中央公論社) 【展示】奈良国立博物館編『新館落成記念 経塚遺宝展目録』 * 4月29日～5月27日。
昭和51年	1976	網干善教「関西大学考古学資料「瓦経」片の復原―秘密三経について―」(柴田実先生古稀記念会編・刊『柴田実先生古稀記念 日本文化史論叢』) * 網干善教(1927～2006)氏の瓦経研究については、「網干善教先生瓦経論文リスト」もともなう平松良雄「持経者としての我が師 網干善教先生」(高の原文化協会『層富』24、2007年)を参照。 津田守一・石井昭郎「菩提山出土の瓦経について 補稿一枚の瓦経」(『伊勢郷土史草』12) 柄崎彰一責任編集『日本の陶磁』古代中世篇4常滑・渥美・猿投(中央公論社)
昭和52年	1977	赤羽一郎・小野田勝一『常滑 渥美』(日本陶磁全集8)(中央公論社) * 小野田勝一「渥美」に言及あり。 網干善教「国学院大学蔵「瓦経」片の復原研究」(『國學院雑誌』845) 難波田徹「経筒銘文考(八)」(『日本美術工芸』467) 奈良国立博物館編『経塚遺宝』(東京美術) 三宅敏之「経塚の遺物」(『新版仏教考古学講座』6(経典・経塚)雄山閣出版) 【展示】名古屋市博物館編『東海の古陶 土と炎の美』(開館記念特別展) * 10月2日～10月30日。
昭和53年	1978	網干善教「関西大学考古学資料「瓦経」片の復原―2―」(『史泉』52) 網干善教「瓦経片復原研究の所例―『妙法蓮華経』書写の二断片の復原と検討―」(『仏教史学研究』20-1) * 吹田市紫雲寺所蔵の瓦経片(出土地・伝来不詳)について「場合によっては伊勢且過山との想定もできるのではないかと述べる。 * 網干氏が考古編の編集を担当した『吹田市史』第8巻別編(1981年)の「吹田市内の瓦経」の項(pp.407～409)に同じ趣旨の論述がある。 井上界三「経瓦断片 「わが蒐集歴」の一断章」(『陶説』305) [参照] 大正14年の項。
昭和54年	1979	網干善教「関西大学考古学資料瓦経片の復原 補記」(『史泉』53) 網干善教「国学院大学蔵「瓦経」片の復原研究 補記」(『國學院雑誌』864) 網干善教「「瓦経」資料解説」(檀原考古学研究所紀要『考古学論攷』3) 網干善教「瓦経の復原とその考察」(『鷹陵史学』6) 網干善教「奈良国立博物館蔵を主とする瓦経の復原」(『南都仏教』42) 小野田勝一「伊良湖岬の文化」(『伊良湖』11、伊良湖岬先端地区自然環境調査報告書、伊良湖自然科学博物館) * [小玉2009] 参照。 関秀夫「経塚遺物の紀年銘文集」(『東京国立博物館紀要』15)
昭和55年	1980	網干善教「宝海天神社の瓦経復原考」(仏教史学会編『仏教の歴史と文化』同朋舎出版) 難波田徹「京都国立博物館蔵瓦経片の復原的研究」(『MUSEUM』352) [再録1991] 同『中世考古美術と社会』(思文閣出版) * 改題「瓦経片の復原的研究」 文化庁監修『新指定重要文化財 解説版 10 考古資料』(毎日新聞社) 和田年弥「伊勢小町塚経塚の研究」(『三重考古』3)
昭和56年	1981	網干善教「江口治郎氏寄贈の瓦経片」(『阡陵 関西大学考古学等資料室彙報』3) 網干善教「東大寺伊良湖瓦窯跡出土の瓦経の復原」(『南都仏教』47) 伊勢市教育委員会編・刊『伊勢市遺跡分布図』 * 「小町塚経塚」の遺跡名を採る。 津田守一「三重県広永陶苑所蔵の陶製光背片」(『考古学ジャーナル』191) * 名古屋市博物館所蔵の光背残欠(細見亮市〔細見良〕旧蔵)の欠失部分。

小町塚経塚と出土瓦経に関する年表兼文献目録稿

		[津田2003]でも言及、拓本の図版を掲載。
		【展示】京都国立博物館編『瓦経』 * 10月6日～11月8日。執筆＝難波田徹。
		難波田徹「瓦経とその時代」(京都国立博物館編『瓦経』) [再録1991]同『中世考古美術と社会』(思文閣出版)
		難波田徹「瓦経の規格性—大日寺と小町塚の瓦経を例として—」 (『MUSEUM』366) [再録1991]同『中世考古美術と社会』(思文閣出版)
		難波田徹「瓦経片の復元的考察—常楽寺美術館蔵を例として—」(『立命館史学』2) [再録1991]同『中世考古美術と社会』(思文閣出版)
		難波田徹「『拓影集—伊勢小町塚経瓦』について」 (大和文華館『美のたより』55)
昭和57年	1982	網干善教「伊勢小町塚出土の瓦経について(一)—龍谷大学蔵本の拓影集から—」 (『小野勝年博士頌寿記念東方学論集』龍谷大学東洋史学研究会)
		網干善教「瓦経片の復原研究—江口治郎氏寄贈の関西大学考古学資料について—」 (『阡陵 関西大学博物館学課程創設二十周年記念特集』)
		難波田徹「富岡謙蔵氏蒐集富岡益太郎氏寄贈瓦経十七片 (本館蔵)について—小町塚経塚資料—」(京都国立博物館『学叢』4) [再録1991]同『中世考古美術と社会』(思文閣出版) * 改題「瓦経十七片について—小町塚瓦経資料—」
		平松令三「瓦経が語る来世への願い、聖域伊勢神宮と小町塚」 (村井康彦編『平安の夢路をたどる』〈日本の舞台2〉集英社)
		藤井直正「歴史時代考古学の視点(二)」(『大手前女子大学論集』16)
昭和58年	1983	網干善教「平安朝後期瓦経片の復原研究 —鳥取県立博物館蔵の大日寺出土瓦経を中心に—」(『南都仏教』50)
		『三重県の地名』〈日本歴史地名大系〉(平凡社) * 「小町塚経塚」「菩提山神宮寺跡」項ほか。
昭和59年	1984	関秀夫『経塚地名総覧』〈考古学ライブラリー24〉(ニュー・サイエンス社)
		藤井直正「井上頼文教授と日本考古学—伊勢国古代遺跡研究の諸業績—」 (『大手前女子大学論集』18) * [小玉2009]に再録。
昭和60年	1985	遠藤正治「読書室物産会について」 (実学資料研究会編『実学史研究』2、思文閣出版) * 京都の「山本読書室」(松田清『京の学塾—山本読書室の世界』〔京都新聞社、2019年〕ほか参照)における物産会についての基礎的論考。 * 三重県域の好古家や本件との脈絡に関し、小玉道明『考古の社会史』[小玉2006]、同「山本読書室と松浦武四郎」(『ふびと』69、2018年)がある。 [再録2003]同『本草学と洋学—小野蘭山学統の研究—』(思文閣出版)
		関秀夫『経塚』〈考古学ライブラリー33〉(ニュー・サイエンス社)
		関秀夫編『経塚遺文』(東京堂出版)
		杉山洋「京都の瓦経—法金剛院「古瓦譜」所載の瓦経—」(『仏教芸術』162)
昭和61年	1986	京都国立博物館編『京都国立博物館蔵 経塚遺宝』(便利堂)
		【展示】三重県立美術館『三重の美術風土を探る—古代・中世の宗教と造型—』 * 10月12日～11月16日。執筆＝毛利伊知郎。
昭和62年	1987	西山克『道者と地下人—中世末期の伊勢』〈平凡社選書〉(平凡社)
昭和63年	1988	網干善教「瓦経の復原的研究—近時所見の瓦経片資料について—」 (斎藤忠先生頌寿記念論文集刊行会編『考古学叢考』中、吉川弘文館)
		平松令三「中世の文化交流と地方文化」 (日野昭博士還暦記念会編『歴史と伝承—日野昭博士還暦記念論文集』永田文昌堂)
		——「新収資料紹介—瓦経」(『名古屋博物館だより』62)
		【展示】佐野美術館編『仏教美術入門展』 * 10月14日～11月20日。松田光氏(神奈川県在住)コレクションを展示。 * 複数の瓦経をモノクロ図版で掲載。
▼平成期▼		
平成元年	1989	中村五郎「豊受大神宮禰宜度会氏の経塚造営とその周辺」(『福島考古』30)

小町塚経塚と出土瓦経に関する年表兼文献目録稿

平成2年	1990	関秀夫『経塚とその遺物』〈日本の美術292〉(至文堂) 関秀夫『経塚の諸相とその展開』(雄山閣出版) 名古屋市博物館編『名古屋市博物館だより』72(1990年2月1日付発行号) *「新収資料紹介」で、陶製光背残欠(細見亮市(細見良)旧蔵)を紹介。 和田年弥「伊勢小町塚瓦経の復原研究—新資料の拓本帖を中心に—」 (『國學院雑誌』1002)
平成3年	1991	『皇學館大学史料編纂所蔵鈴木敏雄氏遺稿・旧蔵資料目録』(同編纂所) *資料番号2713に「宇治山田市古森家旧蔵瓦経拓本」。 <small>[小玉2009]参照。</small> 吉岡康暢「刻銘を有する中世陶器」(『国立歴史民俗博物館研究報告』36) *小町塚経塚出土光背の銘文解釈をめぐる詳論を含む。 【展示】伊勢市立郷土資料館編『伊勢の経塚—埋経信仰—』 *2月23日～3月24日。担当・図録執筆=岩中淳之。
平成4年	1992	名古屋市博物館編『瓦礫舎 尾張地域の考古資料に関する文献資料調査2』 〈名古屋市博物館調査研究報告2〉 *梶山勝「瓦礫舎の古瓦及び『古瓦譜』について」収録。
平成5年	1993	【展示】奈良国立博物館 特別公開「仏像と光背のめぐりあい—三重・小町塚経塚 関連遺物とその周辺—」 *3月13日～3月21日。図録なし。 <small>[安藤1996][浜田2003]参照。</small> *光森正士・岡田健『仏像彫刻の鑑賞基礎知識』(至文堂、1993年)参照。 【展示】倉吉博物館編『経塚の遺物～こめられた願い～』 *4月3日～5月9日。 【展示】第13回三重県埋蔵文化財展「伊勢志摩をめぐる考古学」 (三重県埋蔵文化財センター主催、於:伊勢市立図書館) *11月24日～12月5日。瓦経・粉塔(浦口町連合会・等観寺)を出品。 [参照]『三重県埋蔵文化財センター年報』5(1994年)。
平成7年	1995	押見英喜「平安時代の瓦経(一二世紀)〈あの品この品〉」(『野田経済』1565) 中村五郎「外宮禰宜の経塚とその周辺—藤末・鎌初の伊勢神宮神官と仏教—」 (大川清博士古稀記念会編『王朝の考古学』雄山閣出版)
平成8年	1996	安藤章仁「三河妙源寺における真宗文化財について」(『印度学仏教学研究』44-2) *「法宝物一覧」の表に「瓦製合掌如来坐像」(像高19.3cm)を登載。 *安藤氏(2023年3月没)は当時大学院生で、後に妙源寺住職をつとめた。 時枝務「伊勢・小町塚出土光背の施文技法」 (坂詰秀一先生還暦記念会編・刊『考古学の諸相』) 中村五郎「信仰・宗教者と陶器の生産と流通 —12,13世紀の伊勢湾周辺地域の状況—」(常滑市民俗資料館『研究紀要』VII) 名古屋市博物館編『名古屋市博物館蔵品目録』1総集・考古編 [参照]文化13年(1816)の項。 難波田徹「瓦経—その存在と意義—」 (『日本文化史研究』24〈難波田徹教授追悼号〉) 【展示】奈良国立博物館編『中部地方に埋納されたやきもの』 *1月4日～2月4日。「経塚出土陶磁展2」としての企画。
平成9年	1997	岡田茂弘「史料館蔵の瓦経と有銘磚」(『学習院大学史料館紀要』9)
平成10年	1998	苺米一志「在地社会における経塚造営の意義—伊勢小町塚経塚と三河国伊良湖御厨」 (『金沢文庫研究』300) [再録2004]同『荘園社会における宗教構造』〈歴史科学叢書〉(校倉書房) *第一部第一章「荘園社会における寺院法会の意義—三河国伊良湖御厨における埋経供養を例に一」として。 中村善則「柳田義一氏蒐集 瓦経資料について」(『神戸市立博物館紀要』14) 牟礼仁「心御柱大日如来像考(下)」(『芸林』47-2〔通巻233〕) *末尾の「関係略年譜」に記載、「(京都公家との関係深しと)」と付記。
平成11年	1999	芝本行亮「菩提山瓦経の復元的考察」(『伊勢郷土史草』33) 関谷良男「三重金石文研究 伊勢小町塚経塚出土の未公表瓦経片」 (『三重金石文研究』12)
平成12年	2000	関谷良男「三重金石文研究 伊勢小町塚経塚出土の未公表瓦経片(二)」 (『三重金石文研究』13) 和田年弥編著『三重県古銘集成』(自刊) *『三重県史』資料編(古代上)は、これを典拠とする。
平成14年	2002	村木二郎「作善業としての瓦経—伊勢小町塚・菩提山瓦経の復原から—」 (『国立歴史民俗博物館研究報告』93)

小町塚経塚と出土瓦経に関する年表兼文献目録稿

平成15年	2003	小野田勝一「渥美焼の経筒・瓦経・五輪塔」(『伊勢湾考古』17)
		駒田利治「小町塚経塚」(坂詰秀一編『仏教考古学事典』雄山閣) *参考文献として「和田1980」を掲出。
		津田守一「三重県津市廣永陶苑所蔵の小町塚出土の陶製光背・瓦経について」
		和田年弥「伊勢市立郷土資料館所蔵「瓦経」の復元」
		浜口主一「小町塚出土の陶製如来坐像を訪ねて」
		『伊勢郷土史草』37 *左記は掲載順に配列
		【展示】奈良国立博物館編『弥勒如来にささげる一お経のタイムカプセルー』 *9月2日～10月5日。東京国立博物館蔵「伊勢市小町塚出土品」(重文)、 名古屋市博物館所蔵の陶製光背断片、妙源寺所蔵の土製如来坐像を展示。
平成16年	2004	國學院大學日本文化研究所学術フロンティア推進事業「劣化画像の再生活用と資料化に関する基礎的研究」プロジェクト編『大場磐雄博士資料目録1』 (國學院大學日本文化研究所) *拓本として「瓦経 佐渡近藤氏蔵 伊勢小川(マ)塚か S22.10.21」あり。
		今野沙貴子「瓦経考」(『博古研究』28)
		和田年弥「石水博物館所蔵伊勢小町塚瓦経の復元」 (『皇學館大学神道研究所紀要』20)
平成17年	2005	小野田勝一「伊勢小町塚経塚の瓦経(1)」(『伊勢郷土史草』37) *左記は掲載順に配列(知多古文化研究会『伊勢湾考古』19)
		津田守一「後白河院による小町塚瓦経塚の造立についての考察 —古川眞澄氏蔵小町塚瓦経を中心として—」(『伊勢郷土史草』39)
		和田年弥「伊勢・小町塚経塚の瓦経」(『古代文化』557)
平成18年	2006	小野田勝一「伊勢小町塚経塚の瓦経(2)」(知多古文化研究会『伊勢湾考古』20)
		小玉道明『考古の社会史 伊賀・伊勢・志摩・東紀州考古記録』(光出版)
		津田守一「古森梅太郎氏が明治初年に収集した小町塚瓦経の考察」 (『伊勢郷土史草』40) *古森梅太郎(号・虞山、1861～1961)は宇治山田市史編纂委員長。
		【展示】神戸市立博物館「はくぶつかんのコレクション展」 *6月10日～7月17日。図録なし。 *「蘇悉地経 別本二祈請品第二十三」「法華経方便品第二」。
		【展示】齋宮歴史博物館編『齋王のおひざもと一齋宮をめぐる地域事情—』 *10月7日～11月23日。東京国立博物館蔵の光背2点・瓦経1点。
平成19年	2007	小玉道明「『神都名勝誌』巻四の「菩提山経瓦摺木」について」(『三重の古文化』92) * [小玉2009]参照。
		津田守一「『伊勢山田小町塚経瓦』拓本集の銘文紹介と小町塚研究における歴史的意義について」(『伊勢郷土史草』41)
		望月幹夫「小町塚瓦経」(小野正敏ほか編『歴史考古学大辞典』吉川弘文館) *参考文献として「[奥村1967]」「[村木2002]」を掲出。
		『愛知県史』別編 窯業3〈中世・近世常滑系〉(愛知県)
平成20年	2008	栗田勝弘「経塚勧進僧の行動と連鎖の軌跡」 (小田富士雄ほか編『経筒が語る中世の世界』思文閣出版)
		津田守一「伊勢国丹生神宮寺所蔵の承安二年在銘の陶製経筒と大川親直氏蔵陶製経筒の銘文についての考察」(『伊勢郷土史草』42)
平成21年	2009	小玉道明『伊勢山田の瓦経』(光出版)
		小玉道明「『三重県史』資料編(古代上)の小町塚瓦経について」 (『三重県史研究』24)
		今野沙貴子「経塚の展開における瓦経研究の意義」(『秋田考古学』53)
		柴垣勇夫・中野晴久・安井俊則・青木修「鳳来寺山・鏡岩下遺跡出土の陶磁器」 (『愛知県史研究』13)
		津田守一「伊勢市中村町・八木基嘉氏所蔵瓦経の考察」(『伊勢郷土史草』43)
平成22年	2010	平松合三「都から地方へ中世文化の伝播 伊勢市小町塚の瓦経が語る来世への願い」(『三重の古文化』付録〈探訪 三重の古文化〉)
		松田光「小町塚の梵字Ⅰ(地下)」〈仏教美術の脇役たち11〉 (『小さな蕾』2010年4月号)
		松田光「小町塚の梵字Ⅱ(地上)」〈仏教美術の脇役たち12〉 (『小さな蕾』2010年5月号)
		松田光「小町塚の「後」」〈仏教美術の脇役たち13〉(『小さな蕾』2010年6月号)
平成23年	2011	——「小町塚経塚」『伊勢市史』第6巻(考古編)第四章 特論遺跡 第四節

小町塚経塚と出土瓦経に関する年表兼文献目録稿

		<p>小玉道明「朝熊山経塚群の瓦経—『伊勢山田の瓦経』補遺として—」 (三重大学歴史研究会『ふびと』62)</p> <p>藪中五百樹『「古瓦搨影張込帖」(東京国立博物館蔵)の検討』(『南都仏教』96) *当該資料は高橋健自による拓本。「伊勢菩提山」瓦経2片あり。</p> <p>【展示】神奈川県立金沢文庫編『愛染明王—愛と怒りのほとけ—』 *10月15日～12月4日。小町塚経塚出土「卍字連記瓦経」(個人蔵)を展示。</p>
平成24年	2012	<p>小玉道明『続考古の社会史 伊賀・伊勢・志摩・東紀州考古記録』(光出版)</p> <p>下野玲子「會津八一の戦前蒐集品に関する調査報告(3)伝鳥取県大日寺ほか瓦経3点について」(『早稲田大学會津八一記念博物館研究紀要』14)</p> <p>矢羽勝幸「木内石亭と成沢雲帯」(『長野』283) *木内石亭(1725～1808)は近江の弄石家/好古家。成沢雲帯(1739～1824)は信濃の俳人。寛政初め(1789～)の項を参照。</p>
平成25年	2013	<p>内川隆志『静嘉堂文庫蔵 松浦武四郎蒐集古物目録』(静嘉堂文庫)</p> <p>小玉道明『伊勢市中村町菩提山瓦経の発掘』(『三重の古文化』98)</p> <p>静嘉堂編『松浦武四郎コレクション 静嘉堂蔵』(静嘉堂)</p> <p>津田守一「伊勢小町塚瓦経に現われる僧聖賢の出自の考察」 (『伊勢郷土史草』47)</p> <p>【展示】静嘉堂文庫美術館「幕末の北方探検家 松浦武四郎」 *10月5日～12月8日。No.86「瓦経」1点(平安時代〔12世紀〕)。 *明治13年の項、[内川2013・2014] [小玉2015②] 参照。</p> <p>【展示】田原市博物館編『渥美窯—国宝を生んだその美と技』 *10月19日～11月24日。 *小町塚経塚遺物は、東博・名古屋市博(光背)・宝海天神社の蔵品を展示。</p> <p>【展示】立正大学博物館編『泥塔と瓦経』〈第8回特別展〉 *11月18日～12月21日。図録は下記でweb公開。 https://www.ris.ac.jp/museum/profile/lvhgqo0000004877-att/record_15_compressed.pdf</p>
平成26年	2014	<p>内山隆志「近代博物館における人文資料形成史の一視点 —静嘉堂所蔵松浦武四郎旧蔵資料の分析から—」(『博物館学雑誌』40-1) *明治13年の項、[内川2013] [小玉2015②] 参照。</p> <p>松田光「瓦経Ⅳ—小町塚と菩提山—」〈仏教美術の脇役たち50〉 (『小さな蕾』2014年2月号)</p> <p>松田光「瓦経Ⅴ—小町塚と菩提山—」〈仏教美術の脇役たち51〉 (『小さな蕾』2014年3月号)</p> <p>【展示】高浜市やきものの里かわら美術館 「瓦だけじゃない!—かわら美術館考古資料展—」 *1月2日～1月19日。図録なし。 *「瓦経(大日経巻1入真言門住心品第1 小川コレクション)」を展示。</p> <p>阿部常樹「経筒と瓦経—伊勢小町塚出土瓦経について—」ミュージアムトーク *6月21日開催。國學院大学HP>取材日誌。国会図書館HP>「WARP」参照。</p>
平成27年	2015	<p>小玉道明①「聆涛閣集古帖の編成と古鏡、瓦経」(『三重県史研究』30)</p> <p>小玉道明②「松浦武四郎収集の銅鈴・白玉・瓦経」(『三重の古文化』100) ——「[コラム] 小町塚経塚」(『三重県の歴史』〈新版県史24〉山川出版社)</p> <p>高浜市やきものの里かわら美術館編・刊 『高浜市やきものの里かわら美術館 収蔵資料 伊藤圭介旧蔵 瓦コレクション』</p> <p>津田守一「伊勢市浦口町連合会蔵の小町塚出土、瓦経・連弁台座・陶製宝塔について」(『伊勢郷土史草』49)</p> <p>【展示】東京国立博物館「経塚出土の瓦経」 *3月8日～7月18日。小町塚関係は重文指定品を含む館蔵品8点。</p> <p>【展示】高浜市やきものの里かわら美術館 「植物学者伊藤圭介と幻の瓦コレクション」 *5月30日～7月5日。図録なし、ただし [同館2015] あり。</p> <p>【展示】高浜市やきものの里かわら美術館 「開館20周年記念特別企画展 館蔵名品展—古瓦—」 *11月14日～12月6日。図録なし。</p>
平成28年	2016	<p>藪中五百樹「藤原貞幹『佛刹古瓦譜』の瓦経」 (須田勉『日本古代考古学論集』同成社)</p>

小町塚経塚と出土瓦経に関する年表兼文献目録稿

		<p>藪中五百樹「藤原貞幹『古瓦譜』『佛刹古瓦譜』(臨山閣文庫尚古齋本)の検討(上)」(『帝塚山大学考古学研究所研究報告』18)</p>
平成29年	2017	<p>加藤俊吾「下郷コレクションの瓦経片」(『大阪歴史博物館紀要』15)</p> <p>小玉道明「小町塚経塚の明治四十一年『瓦経拓本』帖」(『三重の古文化』102)</p> <p>津田守一「和田千吉氏旧蔵小町塚出土瓦経の研究」(『伊勢郷土史草』51)</p> <p>【展示】田原市渥美郷土資料館「仏教の教えを刻んだ 宝海天神社瓦経」 〈愛知やきものヒストリー 2017 連携特別展示〉 * 7月21日～9月3日。主催：田原市教育委員会・田原市博物館。</p>
平成30年	2018	<p>藪中五百樹「藤原貞幹『古瓦譜』『佛刹古瓦譜』(臨山閣文庫尚古齋本)の検討(下)」(『帝塚山大学考古学研究所研究報告』20)</p> <p>【展示】静嘉堂文庫美術館「生誕200年記念 松浦武四郎展 幕末の北方探検家」 * 9月24日～12月9日。No.88「瓦経」1点(平安時代(12世紀))。 * 明治13年の項、[内川2013・2014][小玉2015②]参照。</p> <p>【展示】田原市博物館「田原の歴史～市指定文化財を中心に」 * 12月14日～翌年2月4日。平常展における企画。 * 宝海天神社からの寄託品(市指定文化財、[網干1981]参照)を展示。</p>
▼令和期▼		
令和元年	2019	<p>野中仁・鈴木秀雄・宮原正樹「長瀨綜合博物館旧蔵県指定文化財「古瓦」目録」(『埼玉県立史跡の博物館紀要』12) * 表題の資料群は柴田常恵(1877～1954)の収集品。小町塚の瓦経は9点。</p> <p>【展示】関西大学博物館「瓦経」〈2018年度ミニテーマ展〉 * 1月28日～2月28日。チラシに「小町塚出土」瓦経を掲載。 * なお同館は、常設展示でも小町塚経塚出土瓦経片を複数公開している。</p> <p>【展示】京都国立博物館「ICOM京都大会開催記念 特別企画 京博寄託の名宝—寄託の国宝 出土遺物から—」 * 8月14日～9月16日。小町塚経塚出土瓦経2面(個人蔵か)を展示。</p> <p>【展示】伊勢市役所小俣総合支所1階郷土資料コーナー 第16回企画展「土器大解剖展2 経筒と瓦経～仏教好きな神官たちのお話～」 * 2月3日～7月31日。小町塚経塚については「出土瓦経と瓦経発見者である小森氏の書状について紹介します」(同市HP記事より)。</p>
令和2年	2020	<p>津田守一「小町塚瓦経埋納機構の復元的研究」(『伊勢郷土史草』54)</p> <p>【展示】石水博物館「千歳文庫と川喜田半泥子」 * 12月12日～翌年2月7日。「瓦経(伊勢小町塚経塚出土)」2枚を初出品。</p>
令和3年	2021	<p>清水俊輝「宝海天神社瓦経」〈歴史探訪クラブ220〉(『広報たはら』12月号) https://www.taharamuseum.gr.jp/info/hic/pdf/hic_220_kouko.pdf * 田原市博物館寄託品。『尊勝陀羅尼経』の瓦経側面に「書写奉僧聖賢」の銘。</p> <p>中島啓太「浄勝寺所蔵の瓦経について」(『越前町織田文化歴史館研究紀要』6) * 約17×10cm。『法華経』分別功德品。東条義門(小浜妙玄寺7世、1786～1843)から上野丹山(越前浄勝寺13世、1785～1847)へ贈られた経緯が、天保10年(1839)冬に義門が記した箱蓋裏墨書銘から知られる。その文中に「なかにハ承安の文し見えて月日記せるも侍り」とある。 * 同館HP>「上野丹山」のページにカラー画像と箱書の翻刻あり。 https://www.town.echizen.fukui.jp/otabunreki/panel/08.html</p> <p>松田光「楽山文庫I」〈仏教美術の脇役たち134〉(『小さな蕾』2021年12月号)</p> <p>【展示】東京国立博物館「経塚に埋納された経典—瓦経・滑石経・銅板経—」 * 9月22日～翌年3月21日。小町塚経塚の瓦経1枚(J-36661)を展示。</p>
令和4年	2022	<p>松田光「筆蹟II」〈仏教美術の脇役たち139〉(『小さな蕾』2022年5月号)</p> <p>【展示】東京国立博物館「古代の経塚—三重県小町塚経塚—」 * 9月21日～翌年3月12日。館藏品4件で構成した特集展示。</p> <p>【展示】田原市博物館「海から広がる渥美半島展」 * 10月8日～11月27日。「第2章 海を通してもたらされたもの、運び出されたもの」のコーナーに「小町塚経塚出土、伊勢市蔵」5点を展示。</p> <p>【展示】京都文化博物館「信仰の美—筆に託した祈りの世界—」 * 12月17日～翌年2月5日。図録なし。 (公財)古代学協会所蔵の「瓦経(伊勢・小町塚経塚出土)」1点を展示。 * [佐藤2022]に片面のカラー図版あり。右辺の界線を含む7行分の一部。 『大日経』巻第三悉地出現品第六の一部と同定しうる。 * 出品資料一覧は『京都文化博物館 2022(令和4)年度年報』を参照。</p>

		<p>https://www.bunpaku.or.jp/wp-content/uploads/2023/12/annual2022.pdf</p> <p>佐藤綾介「古写経、未来へー総合展示「信仰の美」開催に寄せてー」 (公益財団法人京都文化財団『文化財レポート』No.36) * 上記、京都文化博物館「信仰の美―筆に託した祈りの世界―」の担当学芸員によるもの。「瓦経(伊勢・小町塚経塚出土)」は片面のカラー図版を掲載。</p>
令和5年	2023	<p>敷中五百樹「藤原貞幹『古瓦譜』『佛刹古瓦譜』(臨山閣文庫尚古齋本)の検討(続1)」 (『帝塚山大学考古学研究所研究報告』25)</p> <p>大川勝宏「仏教の浸透からみた古代伊勢の宗教世界」(2月12日) https://shimane-kodaibunka.jp/wp-content/uploads/2023/02/ookawa.pdf * 島根県古代文化センター公開講座「伊勢と出雲の神・仏」報告資料。</p> <p>【展示】国立歴史民俗博物館編『いにしえが、好きっ!-近世好古図録の文化誌-』 * 3月7日～5月7日。同館所蔵の瓦経片を複数展示。</p> <p>川見典久「柏原学而『温古集』」(黒川古文化研究所『古文化研究』22) [参照] 明治12年(1879)の項。</p> <p>杉崎貴英「岩川コレクションの仏教遺物から ―こけら経・泥塔・伊勢小町塚経塚瓦経―」(6月3日) * 第82回砺波散村地域研究所春季例会での口頭発表。下記ページで公開。 https://sankyoson.com/data/20230618092140244e04.pdf * 岩川コレクション(砺波市埋蔵文化財センター蔵)は岩川範介氏(昭和10年代に没)の収集品。当該の瓦経は昭和6年の箱書を有する。発表では『大日経』巻第6の10枚目の一部にあたることなどを指摘した。</p> <p>【展示】齋宮歴史博物館「博物館学芸員をめざす学生たちが企画した展示です!」 <逸品～エントランス無料企画展示～第2回> * 8月27日～12月22日。館蔵レプリカ(複製)資料による。瓦経は1点。</p>

[付記1]

小町塚経塚(伊勢市浦口町)の東方7～8kmの位置にある菩提山神宮寺跡(伊勢市中村町)からも瓦経が出土しており、「同時に作られ二ヶ所に埋納された、伊勢小町塚瓦経と菩提山瓦経は遺物が混乱している」こと、「両者の遺物は埋納当初から混ざっていたこと」が明らかにされている[村木2002]。したがって本稿は、菩提山の瓦経に関する事項・書誌も対象としていることをお断りしておく。また小町塚経塚は、かつては「旦過(山)」「天神山」という地名によって認識/言及されており、探索の際に留意を要する。

小町塚経塚と出土瓦経をめぐる理解は、とくに平成期では三重県下の考古学/地域史の研究者たちにより更新され続けてきた。小玉道明氏の大作『伊勢山田の瓦経』(光出版、2009年)は、現時点での最も総括的文献である。研究史や書誌については、同氏の『考古の社会史』正・続(光出版、2006・2012年)からも詳細を学ぶことができる。本稿でも、とくに近世・近代に関しては前記三書により得た情報が多いことを特記しておく。

[付記2]

本稿はJSPS科研費23K00182(研究課題名「仏像作例をめぐる再認識と理解形成の追跡―郷土史/在野研究/仏教考古学に注目して―」)による成果を含むものである。なお、前言でふれた口頭発表(「岩川コレクションの仏教遺物から―こけら経・泥塔・伊勢小町塚経塚瓦経―」、第82回砺波散村地域研究所例会、2023年6月3日)は、同研究所が置かれている「とномい散居村ミュージアム」のサイトに動画および配付資料・PowerPointファイルが公開されている(2023年の欄を参照)。また同研究所より、『砺波散村地域研究所研究紀要』第41号(2024年8月刊行予定)に発表内容に基づく寄稿依頼を受けていることを付記しておく。